

子どもの歩き方がおかしくなる原因

(講演資料より)

- ①脳もしくは運動器にまつわる病気がある
- ②けがをした(骨や関節の変形、長さが違う)
- ③靴が合っていない
- ④ふざけて歩いているうちに、おかしい歩き方が身に付いた
- ⑤歩行不足(運動不足)

子どもの運動器の発達で気になること

(講演資料より)

- ①手足の変形がある(形や長さ、太さが違う)
- ②手足の動きが左右で違う(普通でない)
- ③運動機能の発達が遅い
- ④立った姿勢や立ち方、歩き方がおかしい
- ⑤転びやすい
- ⑥体(体幹)が硬い
- ⑦関節が軟らかすぎる

子どもの発育 運動器疾患 理解広がれ

子どもの成長・発達と運動器(骨や筋肉、関節、神経)などの身体運動に関わる部分の(総称)のトラブルについての健康教室が、京あんしん子ども館(京都市子ども保健医療相談・事故防止センター、京都市中京区)であり、京都第一赤十字病院名譽院長の口下野虎夫さん(小児整形外科)が発育の各段階で注意する点を解説した。

子どもの身長は乳児期と10代前半に大きく伸び、スポーツでのけがも筋肉発達とのアンバランスで生じやすくなる。口下野さんは子どもの運動器の特徴として▽骨が軟らかい▽筋力が弱い▽軟骨が厚く傷つきやすい▽骨と筋肉の成長が不均衡」と説明。小児整形外科医として見ている点(「子

子どもの成長・発達と運動器について解説した健康教室(京都市中京区・京あんしん子ども館)



子どもの成長・発達と運動器について解説した健康教室(京都市中京区・京あんしん子ども館)

どもの運動器の発達で気になること」参照)を挙げ、乳幼児期の健康診断における発育性股関節形成不全(DDH)のスクリーニングと早期治療を求めた。京あんしん子ども館で行っている小児整形外科相談

事業では、生後3〜4カ月でDDH疑い、1歳半〜2歳で下肢変形や歩行異常、四肢形態異常、3歳以降は四肢の痛みについての相談が多い。「(発育には)順番があり個人差があるが、保護者が運動発達の悩みを相談できる人がおらず、インターネットには不適切な情報がある」と指摘。不器用でけんけん(片足跳び)ができないなどは気にしなくてもよいが、治療が必要な病気もある。健康診断でも運動器疾患の理解不足で見逃(こ)されてしまう恐れがあるといい、注意を求めた。

子どもの歩き方については個人差や特徴があるが、屋外での運動が少なくなっ

ていることに懸念を示した(「子どもの歩き方がおかしくなる原因」参照)。

成長に伴う下肢の痛みなどの「成長痛」についても説明した。夕方から夜に膝やすね、ふくらはぎ、足、太ももなどに生じ、激しい痛みがある。部位は腫れず、翌朝には症状がなくなる。幼児から思春期までの子どもにも生じる。入学や転居など環境の変化も背景にあるといい、ストレス緩和とメ

ンタルケアが必要となる。新型コロナウイルスも誘因になっていたのではないかといい、長時間の痛みの持続や足を引きずるなどの場合は他の疾患が疑われると説明した。(稲庭篤)

京で健康教室 健診で見逃(こ)し、注意